

第25回「食」と「漁」を考える地域シンポ

サンマをめぐる国際情勢と今期の来遊見込み

共 催： (一財)東京水産振興会・(一社)漁業情報サービスセンター
本州サンマ産地流通対策協議会・気仙沼水産復興グループ運営会議
気仙沼漁業協同組合
後 援： 気仙沼市・気仙沼商工会議所
と き： 2014年8月17日(日)午後2時から5時
と ころ： サンマリン気仙沼ホテル観洋
(〒988-0021 宮城県気仙沼市港町4-19 番 電話：0226-24-1200)

コーディネーター：・二平 章(漁業情報SC・茨城大学人文学部)

■プログラム■

主催者挨拶：渥美雅也(東京水産振興会専務理事) 14:00-14:15
挨拶：佐藤亮輔(本州サンマ流通協議会会長・気仙沼漁協組合長)
来賓挨拶：菅原 茂(気仙沼市長)
趣旨説明：コーディネーター

●第1部：特別報告

○北太平洋のサンマ資源をめぐる国際情勢 14:15-14:45
田中健吾(水産庁資源管理部首席漁業調整官)

●第2部：話題提供

○サンマの漁期前分布量調査結果について 14:50-15:20
巢山 哲(水産総合研究センター 東北区水産研究所八戸支所)

○漁期前の公海調査における漁場分布と外国船情報 15:25-15:50
高橋晃介(水産総合研究センター開発調査センター)

○8月中旬までのサンマの漁況経過と今後の来遊予測 15:55-16:20
渡邊一巧(漁業情報サービスセンター)

●総合討論：サンマの来遊動向をさぐる 16:25-17:00
司会：コーディネーター

●交流会 17:15-18:30
会場：サンマリン気仙沼ホテル観洋
会費：3,000円

■開催趣旨■

今年も大型サンマ船の出漁時期となり、本格的なサンマシーズンを迎えることとなる。近年、初漁期サンマ漁は漁場の沖合化と不漁傾向にあり、サンマの流通経済に大きな影響を及ぼしている。不漁要因としては、道東から三陸沖の夏季の表層高水温がサンマの来遊をさまざまにしているとする考えや、前年の中小型サンマの過剰漁獲が初期来遊群である大型サンマを減少させているとする考え、気候・海洋の中長期的変動の影響を受けたサンマ不漁期到来説などが取りざたされる。また、日本近海来遊前の公海上における台湾船の漁獲量が増加を続け去年は18万トンを超えたことから、公海におけるサンマ漁獲が近海への大型サンマの来遊量減少をもたらしているとする考えなども示されている。そこで、本シンポジウムでは、まず、北太平洋のサンマ資源をめぐる諸外国の動向と国際的な資源管理に向けた動きについて紹介するとともに、沖合分布調査からみた漁期前サンマの分布性状および今期の来遊予測などについて報告しながら、サンマ資源の動向と持続的利用に向けた課題について議論する。

■参加自由・無料■

■第25回地域シンポ 参加申し込み

必要事項をご記入の上、FAX、もしくはメール、お電話にてお申し込みください。
懇親会（参加費¥3,000）への参加の有無について、どちらかに丸をお願いします。

気仙沼漁業協同組合 熊谷宏一 宛

電話：0226—23—3400

FAX：0226—23—3406

E-mail：kou-kumagai@kesennuma-gyokyou.or.jp

代表者 氏名		(所属先)	懇親会に参加 する ・ しない
同行者 氏名		(所属先)	懇親会に参加 する ・ しない
同行者 氏名		(所属先)	懇親会に参加 する ・ しない
代表者 連絡先	(ご住所) 〒		
	(お電話番号)		
	(FAX番号)		
	(メールアドレス) @		

※ご連絡する際に必要となりますので、電話番号とE-mailアドレスを必ずご記入ください。今後、シンポジウムやイベント等のご連絡に使用させていただきます。 ※定員になり次第、受付を終了いたします。